§7 陰関数の定理 演習問題1 解答

☞ 問題の難易度の目安【基礎】★☆☆ 【標準】★★☆ 【発展】★★★

1 (★☆☆)(陰関数の微分計算)

曲線 C: f(x,y) = 0 上の点 P の近傍において、次の方程式 f(x,y) = 0 は陰関数 $y = \varphi(x)$ を持つことを示し、導関数 $\varphi'(x)$ および P における微分係数 φ' を求めよ:

(1)
$$f(x,y) = x^2 - 2xy^2 + y^4 - x + y - 2$$
, $P(0,1)$.

(2)
$$f(x,y) = \cos y + 2x \cos(xy) + 2y \cos x - \pi$$
, $P(\pi, 0)$.

解 (1) $f_x(x,y) = 2x - 2y^2 - 1$, $f_y(x,y) = -4xy + 4y^3 + 1$ であり, $f_y(0,1) = 5 \neq 0$ であるから,陰関数定理より (0,1) の近傍で定義された陰関数 $y = \varphi(x)$ が存在して,

$$\begin{cases} f(x, \varphi(x)) = 0\\ 1 = \varphi(0) \end{cases}$$

が成り立つ。第1式をxで偏微分して、chain rule を使うと

$$f_x(x,\varphi(x)) + f_y(x,\varphi(x))\varphi'(x) = 0$$

$$\therefore \varphi'(x) = -\frac{f_x(x,\varphi(x))}{f_y(x,\varphi(x))} = -\frac{2x - 2\varphi(x)^2 - 1}{-4x\varphi(x) + 4\varphi(x)^3 + 1}.$$

したがって、
$$arphi'(\mathbf{0}) = -rac{f_x(0,1)}{f_y(0,1)} = rac{\mathbf{3}}{\mathbf{5}}.$$

(2) $f_x(x,y) = 2\cos(xy) - 2xy\sin(xy) - 2y\sin x$, $f_x(x,y) = -\sin y - 2x^2\sin(xy) + 2\cos x$ であって, $f_y(\pi,0) = -2 \neq 0$ であるから, 陰関数定理より $(\pi,0)$ の近傍で定義された陰関数 $y = \varphi(x)$ が存在して,

$$\begin{cases} \varphi'(x) = -\frac{f_x(x, \varphi(x))}{f_y(x, \varphi(x))} \\ 0 = \varphi(\pi) \end{cases}$$

が成り立つ. ゆえに,

$$\varphi'(x) = -\frac{f_x(x,\varphi(x))}{f_y(x,\varphi(x))} = -\frac{2\cos\left(x\varphi(x)\right) - 2x\varphi(x)\sin\left(x\varphi(x)\right) - 2\varphi(x)\sin x}{-\sin\varphi(x) - 2x^2\sin\left(x\varphi(x)\right) + 2\cos x}$$

$$\therefore \boldsymbol{\varphi'}(\boldsymbol{\pi}) = -\frac{f_x(\boldsymbol{\pi},0)}{f_y(\boldsymbol{\pi},0)} = \mathbf{1}.$$

2 (★☆☆)(1 変数関数の極値判定条件)

関数 f(x) は C^2 級(すなわち第 2 次導関数 f''(x) が存在して連続)であり、 f'(a)=0 をみたしているとする.このとき,以下を示せ.

- (1) f''(a) > 0 ならば f(a) は極小値.
- (2) f''(a) < 0 ならば f(a) は極大値.
- 解 (1) 仮定の f'(a) = 0 と Taylor の定理より,ある $\theta \in (0,1)$ が存在して,

$$f(x) = f(a) + f'(a)(x - a) + \frac{1}{2}f''(a\theta + x(1 - \theta))(x - a)^{2}$$
$$= f(a) + \frac{1}{2}f''(a\theta + x(1 - \theta))(x - a)^{2} \cdots \bigcirc$$

が成り立つ. 今, f''(x) は連続で f''(a) > 0 だから x = a の近くで f''(x) > 0. よって $x \neq a$ が a に近いとき $f''(a\theta + x(1-\theta))(x-a)^2 > 0$ だから, ①より f(x) > f(a) となって f(a) は f(x) の 極小値である.

(2) -f(x) に (1) の議論を適用すれば、 $x \neq a$ が a に近いとき -f(x) > -f(a) …② を得るが、a に近い x に対して ② $\iff f(x) < f(a)$ だから f(a) は f(x) の極大値である.

3 (★★☆)(陰関数の極値)

次の方程式で与えられる陰関数 $y = \varphi(x)$ の極値を求めよ.

(1)
$$f(x,y) = x^2 + xy + y^2 - 1 = 0$$

(2)
$$f(x,y) = x^2 - xy - y^2 + 2 = 0$$

解 (1) 陰関数 $y = \varphi(x)$ は $f(x, \varphi(x)) = 0$ を満たすから,

 $\varphi(x)$ の極値を与える点において $\varphi'(x)=0$ であるから、①より $2x+\varphi(x)=0$ …② を満たす。 これを元の方程式 $f(x,\varphi(x))=x^2+x\varphi(x)+\varphi^2(x)-1=0$ へ代入して、

$$x^{2} + x(-2x) + (-2x)^{2} - 1 = 0$$
 $\therefore x = \pm \frac{1}{\sqrt{3}}$.

ゆえに、 $x = \pm \frac{1}{\sqrt{3}}$ が $\varphi(x)$ の極値を与える点の候補であり、

$$\varphi\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{2}{\sqrt{3}}, \quad \varphi\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2}{\sqrt{3}}$$

を満たす. 以下, $\varphi''\left(\pm\frac{1}{\sqrt{3}}\right)$ の符号を調べよう.*①より $\varphi'(x)=-\frac{2x+\varphi(x)}{x+2\varphi(x)}$ だから,

$$\varphi''(x) = -\frac{2 + \varphi'(x)}{x + 2\varphi(x)} + \frac{(2x + \varphi(x))(1 + 2\varphi'(x))}{(x + 2\varphi(x))^2}$$

である. $\varphi'\left(\pm\frac{1}{\sqrt{3}}\right)=0$ かつ $2\left(\pm\frac{1}{\sqrt{3}}\right)+\varphi\left(\pm\frac{1}{\sqrt{3}}\right)=0$ (複合同順 : ②) に注意して,

$$\varphi''\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{2}{\frac{1}{\sqrt{3}} - \frac{4}{\sqrt{3}}} = \frac{2}{\sqrt{3}} > 0$$

$$\varphi''\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = -\frac{2}{-\frac{1}{\sqrt{2}} + \frac{4}{\sqrt{2}}} = -\frac{2}{\sqrt{3}} < 0$$

だから, $y=\varphi(x)$ は極小値 $\varphi\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right)=-\frac{2}{\sqrt{3}}$,極大値 $\varphi\left(-\frac{1}{\sqrt{3}}\right)=\frac{2}{\sqrt{3}}$ をとる.

(2) 陰関数 $y = \varphi(x)$ は $f(x, \varphi(x)) = 0$ を満たすから,

$$f_x(x,\varphi(x)) + f_y(x,\varphi(x))\varphi'(x) = 0$$

$$\therefore (2x - \varphi(x)) + (-x - 2\varphi(x))\varphi'(x) = 0 \quad \cdots \ 3.$$

ゆえに、極値の候補点において $\varphi'(x)=0$ であるから、③より $2x-\varphi(x)=0$ …④ を満たす。④を $f(x,\varphi(x))=x^2-x\varphi(x)-\varphi(x)^2+2=0$ に代入して、

$$x^{2} - x(2x) - (2x)^{2} + 2 = 0$$
 $\therefore x = \pm \frac{\sqrt{10}}{5}$.

ゆえに、 $x = \pm \pm \frac{\sqrt{10}}{5}$ が $\varphi(x)$ の極値を与える点の候補であり、

$$\varphi\left(\frac{\sqrt{10}}{5}\right) = \frac{2\sqrt{10}}{5}, \quad \varphi\left(-\frac{\sqrt{10}}{5}\right) = -\frac{2\sqrt{10}}{5}$$

を満たす.以下, $\varphi''\left(\pm\frac{\sqrt{10}}{5}\right)$ の符号を調べよう.③より $\varphi'(x)=\frac{2x-\varphi(x)}{x+2\varphi(x)}$ だから,

$$\varphi''(x) = \frac{2 - \varphi'(x)}{x + 2\varphi(x)} - \frac{(2x - \varphi(x))(1 + 2\varphi'(x))}{(x + 2\varphi(x))^2}$$

である. $\varphi'\left(\pm\frac{\sqrt{10}}{5}\right)=0$ かつ $2\left(\pm\frac{\sqrt{10}}{5}\right)-\varphi\left(\pm\frac{\sqrt{10}}{5}\right)=0$ (複号同順 :: ④) に注意して,

$$\varphi''\left(\frac{\sqrt{10}}{5}\right) = \frac{2}{\frac{\sqrt{10}}{5} + \frac{4\sqrt{10}}{5}} = \frac{2}{\sqrt{10}} > 0$$

$$\varphi''\left(-\frac{\sqrt{10}}{5}\right) = \frac{2}{-\frac{\sqrt{10}}{5} - \frac{4\sqrt{10}}{5}} = -\frac{2}{\sqrt{10}} < 0$$

だから, $y=\varphi(x)$ は極小値 $\varphi\left(\frac{\sqrt{10}}{5}\right)=\frac{2\sqrt{10}}{5}$,極大値 $\varphi\left(-\frac{\sqrt{10}}{5}\right)=-\frac{2\sqrt{10}}{5}$ をとる. ■

^{*1} 変数関数 $\varphi(x)$ の極値判定 $\boxed{\mathbf{2}}$ に従って議論する.

|4| (★★☆)(陰関数の第2次導関数)

2変数関数 f(x,y) は C^2 級関数(すなわち 2 階までのすべての偏導関数が存在して連続)で, f(a,b)=0 かつ $f_y(a,b)\neq 0$ とする.このとき,x=a の近くで定義された 2 回微分可能な陰関数 $y=\varphi(x)$ が存在して,

$$\varphi''(x) = -\frac{f_y^2 f_{xx} - 2f_x f_y f_{xy} + f_x^2 f_{yy}}{f_y^3}$$

が成り立つことを示せ、ここで右辺に現れるすべての偏導関数は $(x, \varphi(x))$ における偏導関数である。

解 f(a,b) = 0 かつ $f_y(a,b) \neq 0$ であるから、x = a の近くで定義された 2 回微分可能な陰関数 $y = \varphi(x)$ が存在して

$$\begin{cases} f(x, \varphi(x)) = 0 \\ b = \varphi(a) \end{cases}$$

が成り立つ。第1式をxで偏微分して、chain rule を使うと

$$f_x(x,\varphi(x)) + f_y(x,\varphi(x))\varphi'(x) = 0$$
 ··· ①.

さらに①の両辺をxで偏微分して、再び chain rule を使うと

また f(x,y) が C^2 級だから, $f_{xy}=f_{yx}\cdots$ ③ が成り立つ.括弧内の変数 $(x,\varphi(x))$ を省略して ①、②、③をまとめると次を得る:

①' から得られる $\varphi'(x) = -f_x/f_y$ を ②' へ代入すれば所望の等式を得る.

一般に f(x,y)=0 で定義される \mathbb{R}^2 の図形は 1 つの関数 $y=\varphi(x)$ のグラフのみで表現できるとは限らない。たとえば、 $f(x,y):=x^2+y^2-1$ とした場合に \mathbb{R}^2 の図形 Check C:f(x,y)=0 は単位円を表すが、これは $y=\sqrt{1-x^2}$ と $y=-\sqrt{1-x^2}$ のグラフの和集合になっている。また $f_y(x,y)=2y$ より $f_y(\pm 1,0)=0$ だから、点 (1,0),(-1,0) の近くではいかなる関数 $y=\varphi(x)$ で表すことはできない。

